

オリンピックで 日本に活力を呼び戻せ

今年の秋、いよいよ2016年オリンピック・パラリンピックの開催地が決まる。商工会議所も日本への五輪招致に力を注いでいる。戦後60年以上がたち、日本は住みやすい豊かな国になってきた一方で、かつて国民が一つの大きな目標に情熱を傾けたような一体感は薄れている。2016東京五輪の実現が日本全体の活力強化につながることを期して、岡村正・

日本商工会議所会頭と北京五輪メダリストである朝原宣治さん（4×100mリレー）、中村礼子さん（背泳200m）が思いを語る。
（司会＝渡邊佳英・日商特別顧問）

五輪開催で「環境都市」をアピール

司会（渡邊） いまは世界同時不況のあおりで厳しい時期ですが、



岡村 正
（おかもら ただし）
昭和13年7月26日生まれ。東京大学法学部卒業後、東芝入社。平成12年6月社長就任。17年6月会長。19年日本商工会議所会頭、東京商工会議所会頭

それ以上にこの10年、20年、日本は国も人もパワーがなくなってきたというか、元氣を出さなれないというか、という気がします。岡村会頭にまずお聞きします。2016年の東京五輪招致で期待される意義はどんな点でしょうか。岡村 前の東京五輪の招致が決まったところは、戦後復興をやり遂げ、ようやくオリンピックができて国になった、という高揚があった。日本人全体のやる気や活力が一気に高まりました。今では当たり前前の社会インフラである新幹線や高速道路の整備も東京五輪をきっかけに始まったんです。開催された1964年は私が社会に出て2年目で、初めて高速道路を走った時は「これが日本か」という感慨がありました。

2016年東京五輪招致が実現すれば、地球温暖化・環境問題を解決していくモデル都市としてのインフラが整備され、東京の樹木を100万本に倍増し、緑に包

まれた開催地になる計画です。日本の環境問題に対応する技術は世界でもトップクラスです。環境立国JAPANをオリンピックで訪れた海外の人たちに示せる大きなチャンスであり、日本の国際的地位を高めることにもなると思います。

また、試算では経済効果として、日本全体で2兆9400億円、そのうち地方で1兆3900億円が期待できます。

さらに、前の東京五輪が良い機会になって海外の人たちとの交流が深まった。まだまだ日本の国際交流は少ないですから、こちらも期待したいですね。

司会 サッカーワールドカップでも感じますが、オリンピックの場合、応援する側が盛り上がり、それが国を愛する気持ちを高める効果にもつながります。東京五輪の実現となればぜひ、そうやってほしいです。朝原さん、中村さんは、選手の立場から見ると東京五輪



司 会
渡邊 佳英（わたなべ よしひで）
昭和23年7月31日生まれ。慶應義塾大学工学部卒業。野村総合研究所を経て大崎電気工業入社。63年11月社長。平成21年1月会長。現在、（財）日本ハンドボール協会会長、日本商工会議所特別顧問、東京商工会議所副会頭

実現に対する思いはどうですか。朝原 もし僕が選手として参加できるなら、自分の国で開かれる五輪に参加できることは、ものすごくモチベーションが上がるだろうし、周りの人たちの応援が追い風になると思います。

僕が今心配しているのは、現在の景気が世界的な不況にのみ込まれている中で、企業スポーツが活力を失ったり、衰退してはならない、という点です。五輪競技などの場合、社会人として企業で働いている選手がどれだけ練習に取り組める環境を整えてもらっているか、というのが非常に大きいんです。オリンピックを支えているのは企業スポーツと言っても言い過ぎではない部分がありますから、企業が社会人スポーツにどれだけ価値観を持っていてくれるかがオリンピックの土壌として大事な部分です。僕は大阪ガスで働いています。北京五輪では会社を挙げて応援してもらいました。そして僕を応援していただく中で、会社が一つになったというか、求心力が生まれたと思うんです。

中村 私の場合は大学を卒業してからスイングスクールの職員として選手活動を続けてきました。コーチをやりながら選手を続けていくという採用の仕方もあったの

かもしれませんが、選手に専念できる環境を与えられたことで競技と練習に集中できたのだと思います。

2016年に東京で開催されることになった場合、自分の国でやることに對してプレッシャーを感じるでしょうね。前に横浜で開かれた国際大会では、ものすごいプレッシャーで、思うような成績が残せなかったことがあります。東京でオリンピックができるなら、海外選手の受け入れ態勢の整備も万全を尽くして頂きたいですが、プレッシャーと戦っている日本の若い選手をメンタル面でサポートしながら応援していただけたらうれしいです。

競技選手をサポートする 活発な企業スポーツ

岡村 お二人の話を伺いながら選手と企業、社会が一体となること、それぞれの活力につながると思えました。日本各地でスポーツ熱が高まり、日本全体の底上げになるということですね。

司会 選手が多くの面で所属企業、あるいは地域によって支えられている部分があることを伺い、なるほどと思うところがありましたね。地方の場合、スポーツ施設



中村 礼子
（なかむら れいこ）
昭和57年5月17日生まれ。日本体育大学卒業。大学4年の時、アテネ五輪で女子背泳200mで銅。大学卒業後、東京スイミングセンター入社。昨年の北京でも銅メダル獲得

朝原 宣治
（あさはらの のぶはる）
昭和47年6月21日生まれ。同志社大学卒業後、大阪ガス入社。100m陸上で3回日本記録更新。36歳で4回目の五輪出場となる北京大会では4×100mリレーで念願の銅メダル獲得

は立派でも、指導者層が薄い。私の関係しているハンドボールもそうですが、団体競技は、特に地方が弱いからです。岡村会頭の指摘されたように、五輪開催が地方のスポーツ熱を呼び起こすに大いに期待したいところです。

朝原 選手と会社はつながっています。会社だけでなく地域社会とのつながりの中で選手は練習に打ち込み、成績を上げていきます。僕も若いころは、練習と競技に無我夢中でそれが見えなかったのですが、幸運なことに選手を長く続けることができたため、そういうことまで見えてきました。会社とつながり合う、社会とつながり合う、地域とつながり合う中で、「耐える・努力する」だけではなく、選手として心身ともに強くなりたという向上心や探究心が育ち、楽しみながらやってこれました。

中村 私の場合は小さいころから習い事として水泳を始めて、水泳の選手として社会人になりました。社会人として競技を続けてきて、自分の成績のことばかりが頭の中にあって、一人で悩むことが多くて、社会とのつながりなんて考える余裕はなかった。でも選手は自分一人じゃなくて、会社や地域とつながっているんだという意識があれば、もっと楽しく練習で

きたかもしれません。選手は周りの人のサポートに対して感謝の気持ちを持たないといけないのですが、競技に集中して記録を出すことだけが頭の中にありますからなかなか気付かないです。

人を育てる、心を鍛える

岡村 人を育成する、心身ともに強い人を育てる、という意味でもスポーツの意義は大きいと思います。社会全体でスポーツに力を入れることで優しくたくましい人間をつくる環境を整備することが重要だと思っています。

私も北京五輪はテレビを観ながらずっと応援していました。観る側から言うと、誰が勝つかメダルを取るかとことんまで自分を追い詰めてそれを克服し試合に臨む、そして結果がどうあれ、極限まで追い込んだ自分を実現していく。そのひた向きさに一番感動をおぼえます。その人がそこまでやった努力に惹かれますね。しかも4年に一度しかない大会で必死になって集中する姿が好きです。世界新や大会新の記録ではなくても自己記録を更新した時は、その選手に対して「頑張ったね」とたたえたくになります。



つれて気持ちが落ち着いていきます。

岡村 中村さんのそういう気持ちの中での葛藤を克服した姿が見る人に感動を伝えるのでしよう。スポーツはこれからの日本の教育において非常に大事な役割を果たすと思います。最高の舞台に立つまでの努力を見て感動する、その人の努力を理解する、そうしたことで子どもたちがスポーツの神

髓を感じ啓発される。日本の教育の中でスポーツの意義を意識しながら、招致活動を活発にやっていきたいと思っています。

競争になると目が輝く子どもたち

朝原 最近子どもたちに教える機会が増えたのですが、みんなの目に一番力が生まれるのが、かけつこです。今の学校教育では運動会や、かけつこなどの陸上競技で順位をつけてはいけない、という

東京五輪を地域活性化の契機に

全国各地の商工会議所では、地域活性化の一環として観光振興に取り組んでいます。観光の振興は、交流人口の増加を通じて、地域における消費の拡大や雇用の創出など大きな経済波及効果が見込まれます。しかし、少子高齢化が急速に進むわが国では、国内観光の振興と、訪日外国人の増加、すなわちインバウンド振興にも力を入れる必要があります。政府においても、観光立国推進基本法



須田 寛
日本商工会議所観光専門委員会委員長 (名古屋商工会議所文化委員長、JR 東海相談役)

を制定し、それを踏まえて、2010年までに訪日外国人数1000万人、20年までに2000万人を目標としています。いうまでもなく、オリンピックのような国際イベントには、海外から多くの外国人が訪れます。その結果、オリンピックの目的である国際間の人的交流が進みます。同時にこれらの人々が、開催地のみならず、さらに他都市を訪れることによって、地方での国際交流も進み、その経済効果も国内全域に及び、地域活性化のきっかけとなります。こうした意味からも、16年オリンピックの開催地にその波及効果が特に大きい東京が選ばれることを大いに期待しています。

朝原 陸上や水泳のようにタイムや記録を競う競技は岡村会頭がご理解くださっているような面があると思います。とにかく勝つ以外に結果を出せない対戦競技ではま

た違ってきます。100mや4x100mリレーなどはトラックに立つ前、あるいはその直前までは自身の葛藤との戦いです。でも競技に入ると吹っ切れていますし、

ころが多いと思いますが、足の速い遅い、強い弱い、で扱いに差をつけたり、優劣をつけるのではなくて、勝った子どもはほめる、勝った達成感を体感させる、それで落ち込む必要などないわけだから負けた子どもも励ましてほめる、という形で周りでサポートすればいいと思います。本当に競争では目が輝いていますよ。

中村 水泳でもそうですね。リレーなんかやると、子どもでもそれまでの泳ぎ方とは違う、勝つための泳ぎ、負けないような泳ぎ方になりますね。

朝原 達成感って子どもにとって大事なんです。試合や競技のように勝ち負けの判定だけだと引つ込み思案の子どもは、勝つ達成感を得られない。だから僕は今、子どもたちの山登り大会を企画しているんです。彼らの足には少しきつい山をみんなで登る、頂上まで自分の力で登って、「やった、登った！」という達成感を子どもたちに体験してほしいんです。

地方を含む日本全体の活力をよみがえらせる

司会 最後にみなさんの東京五輪実現への思いをひと言ずつお願いします。

中村 最初に会頭が言われたような緑に包まれた競技環境、「環境に優しい東京」というインフラの整備に期待します。それと東京にこれだけの人と情報が集まっているのですから、その力と情報が一つになって東京だけでなく地方を含む日本全体に活力が出るようにしたいです。そのために選手は頑張らなければならないと思います。

朝原 東京五輪招致を機にスポーツ環境をもう少し整えることができたらいいな、と期待しています。スポーツ振興法も新しい視点を入れて、もっと地域や社会がスポーツと一体となるような仕掛けが整備されるといいなと思っています。

岡村 21世紀の日本がこれから世界の中でどう進むべきか、これからの日本の在り方を示すのが2016東京五輪だろうと思うのです。これからの日本の存在価値、目標とすることは世界に先んじて地球環境問題に取り組み、世界をリードすることだと思います。

それを世界にアピールする象徴的イベントが2016東京五輪であって、環境立国JAPANを世界に理解してもらうために、日本商工会議所としても、積極的に招致活動を進めていきたいと思っています。